

大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

日 時：令和6年3月26日（火） 15時30分～17時25分

会 場：役場3階 大会議室

参加者：別紙のとおり

～ 次 第 ～

1. 地域振興課長 挨拶
2. 委員紹介
3. 議題

■人口ビジョンについて

事務局

よかまち創生プロジェクトを効果的に進めていくための基礎となっている。大刀洗町の人口の現状やこれからの推計を示したものの。

総人口は増加傾向を維持している。また外国人人口も増えてきている。人口動態は社会増が自然減を補っている状況。

人口数や児童数は校区間の差が出てきている。

令和5年度に新たな人口推計が発表され、町の人口推計は前回の推計値より改善しており、人口ビジョンの目標人口を上回っている状態にある。令和6年度は人口ビジョンの目標人口の改訂を進めて行く予定。

委 員

人口を考えると、高齢化率や人口数の校区間の格差が出てきている。生活の利便性も異なる。画一的な計画を立てると住民の満足度は上がらないと思う。校区間の違いを考慮した細かい計画策定が必要になるのではないか。

会 長

18P、19Pのグラフが逆ではないか？あわせて18P、19P転出入の数値の合計は9Pの社会増減の数値と一致しないが、どうしてか。（別紙1の「1」をご参照ください）

会 長

先ほど、ご指摘があった地域間格差の問題は少し気にするというか、この審議会においても重点項目としてほうがいいでしょう。

■総合戦略について

事務局

第2期よかまち創生プロジェクトは令和5年度に4年目を迎え、来年度は最終年度となる。来年度は、第2期を締めくくり、第3期の策定を行う。

今年度の改訂は3点ある。1点目は5Pの課題「ひと」における人口の推計値などを国立社会保障・人口問題研究所が令和5年に発表した数値に更新している。

2点目は8P町の強みを「自然災害が少なく、快適に暮らすことができる」と記載していたが削除。近年、夏場に水害の発生が連続して発生しており、山もなく平坦な地形であって土砂災害などは発生していないものの、強みいえる状況ではなくなってきたと判断したため。

3点目は26P来年度から実施する新規事業「創業・新事業展開支援補助金交付事業」を追加。これまでの審議会においてもご意見いただいていた町の企業や創業への支援として新たに開始する。これは町内での創業や事業展開に必要な経費の一部を補助するもの。移住や雇用が増えた場合には10万円の増額を行う。

委員

外国人の人口が増えているというデータがあったが、現在海外からの人材の獲得も難しくなっている。町内にお住いの外国人の方が町内で働かれているのか？どこで働いているのか？また、外国人の方が暮らしやすくなるための取組みも必要だと考えるが、町の取組みの状況は？

事務局

町に住んでいる外国人の就業先に関するデータはもっていないが、海外からの技能実習生が多いと聞いている。町の取組みは、他自治体の取組みなどを参考にしながら方向性を検討したいと考えている。企業が雇用している場合も多く、誘致企業会を中心とした企業、事業者や農業の技能実習生に関しては農業経営者とコミュニケーションを密にとりながら展開を模索する段階。

委員

誘致企業会については、誘致企業会は当初は30社近くいたのですが今11社になっている。

委員

審議会の開催が3月26日となっているが、過去には11月、12月にも開催されていた。まず3月に開催する理由は？

私の感覚では、いろんなご意見があがったとしても、これがいつ反映されるのかなど。次年度に関しては、翌年度の予算はもう決まっていて、皆さんの声が、反映されるのは2年先の話なのか。もう少し余裕を持った時期に、皆さんのご意見をいただいて、それ

を次年度に活かすことは可能なのかなと思う。

事務局

事業を年度単位で実施するため、11月だと後半の部分でやる事業の報告をほとんどできないことが3月に開催する大きな理由となっている。

審議会での意見がどのように活用されるのかという点ですが、令和6年度末にこの第2期のこのプロジェクトは終了する。令和6年度に、第3期の取り組みをどうしていくのかを、いただいた意見をもとに考えていくことになると考えている。

まだ審議会をどのような形でやるのかは、今の時点では決まっていない。

委員

最初に、これを立ち上げられた10年前は審議会自体を1年にわたって複数回開催し、これに加え分科会を作られて、かなり綿密に意見交換をしていた。10年前と社会情勢も変化しているのに、1年に1回の審議会の意見で第3期の検討をするよりも10年前と同じぐらいの規模で検討してもらいたい。

事務局

最初の第1期策定から携わっていただいている委員においては今までの流れを把握されていることかと思う。おっしゃる通り、第1期から第2期に移行する際に、十分な協議を重ねずに移行してしまったことは反省点としてある。

令和6年度の取り組みとしては、10年間の社会の変化や施策のあり方を今後の審議会の回数を見極め、議論し、しっかりと進めていきたいと考えている。

委員

町のこれまでの情報発信や様々な施策の成果として今、町が注目を浴びているのかなと思う。私はこの次の施策が大事になってくる。ぜひ色々な方の意見を吸い上げて、充実した計画にしていきたい。

事務局

委員がおっしゃったように次期計画の際、しっかり審議会を開きながら進めさせていきたい。審議会が3月の開催になっているのは先ほど申し上げたとおり。予算に関しては、各事業について既に付けているので、今回の審議会は事業の進め方や目標設定が正しいかを毎年確認する位置付けになっている。次期計画に向けては、まったく別のプロジェクトを立ち上げて、やるべきだというふうに改めて認識した。

委員

町は町単独だけのことを考えても、まちづくりはできないと思う。色々なことが周りの影響を受けている。今回、コストコができる大きく変わるでしょう。医療機関や、飲食店、運動施設など町の中に資源が少ないので、やはり周りの影響を受ける。次の計画を立てるときに周りの状況も少し加味していただいて、計画を立てていただくことを要望したい。

委員

そもそも人口減少は町だけではなく、日本全体の流れ。中には人口が増えないほうがいいと考えている方もいらっしゃるかもしれない。

住民や町で働く人に対して、人口が増えた際のいい所と、悪い所を短期的と長期的に分けて示していくと、より多くの住民が「これはまずいね」と、地域全体でできること、できないことを区別しながら考えることができるのではないか。

町が人口増加を目標にすることもいいですが、全国的に人口が減っていく中である程度難しい面もあると思う。少なくなっていくこともいいという試みがあっても、もしかしたらいいのかもしれない。

会長

外国人の人口が鍵になると考える。2017年、2018年、2019年から、かなり外国人の人口の増え方が著しい。実態を明らかにした方がいいと思う。

事務局

データの分析はすぐ分析できると思う。外国人の人口動態をしっかり把握したい。

■事業の実施状況について

事務局

1つ目の柱「行ってみたい 住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。」柱のKPIは達成。各事業について定住促進住宅は、順調にほぼ満室をキープしている。空き家バンクは、今年度は売却2件。現在の登録数3件と活発に動いてきている。

委員

KPIの設定の仕方について、例えば移住支援金の交付事業は件数がほとんどなくても、実際移住者数は多かったという結果が出ている。そうするとこのKPIをどうしても達成しなければならないかという、必ずしもそうではないと思う。

遠方で移住のハードルが高い方が国や県の補助金を利用して来るのはいいが、そうでなくても大刀洗町がいいから移住しているっていう方が増えているのであればこのKPIの立て方をご検討した方がいいのかなと思う。

例えば移住冊子の配布を町の職員が5人で、ティッシュペーパー配りぐらいの勢いでやればKPIは達成できるかもしれないが、それをやってその効果はどうなのか。

逆に適切なポイントで実施することで、何かにつながれば、そちらの方が意味はある。せっかくやられていることが、この数値目標が達成してないので、安直に意味がないという判断にはならないと思う。

事務局

これから第3期の策定に入りますので、KPIの設定のあり方から考えていきたい。

事務局

2つ目の柱「子どもも親も、共に輝けるようにみんなで応援する。」の柱のKPIは達成している。各事業については、待機児童は令和5年4月1日時点で待機児童数は「0」であるが、年度末になるほど待機児童数は増えている。

会長

コミュニティスクール事業の目標値がアバウトで、どうやってカウントしているのですか。令和3年だけ370人でそのほかは1,000人となっているので。

項目によっては1,000人の根拠は何かと言われたときに、根拠は薄いのではないかと。

(別紙1「2」を参照)

年少人口の割合は長期的には確実に下がっていくわけですよ。それを5年単位で見てもそれをKPIにすることは、ものすごくミスリードになるのではないかと。そこをもう少し工夫した方がいいのでは。予測値があってそれに対する数値を5年間見ていくということだったら理解できるが。

事務局

コミュニティスクール事業を担当課に確認したところ、小学校、中学校で5校あって、1校あたり200人ずつで入る授業数や日数も決まっているので、大体のべ200人程度という計算になっている。

会長

逆にこれは令和3年ってというのは、新型コロナですか。

事務局

はい。その影響を受けています。

委員

イキメンプロジェクトについてなんですが、こちらのKPIが参加者数ですが、のべ人数なのかとか、あるいは学区別だとか、もうちょっと数値の詳細は。

単に参加者数が増えれば良いという内容でもないかと思う。このKPIを、例えば参加型の企画ものに関してはその参加した人の満足度にしては。

事務局

イキメン創生プロジェクトの参加人数はのべ人数になっている。毎回アンケートを行っており、その後の家事・育児への参画意欲が、この講座を通して変わったかというような質問も必ず設けている、単に参加者数ではなくて、それを受けてどう変わったかというところもKPIとしては設定できるような数値になるのではないかと考えている。

委員

色んな集まりに行っても、若い層が本当にいないので、若年層の参加につながるような企画を検討するためにも、アンケートの中にどういうことに興味がありますかみたいな項目をいれて企画のテーマづくりにも役立つようなアンケートを取られたらどうか。

事務局

ありがとうございます。担当といただいたご意見を共有する。

事務局

3つ目の柱「しごとに誇りや、やりがいを感じられるように応援する。」柱のKPIは達成している。各事業については、シルバー人材センター登録人数は介護保険被保険者証交付会等でも周知を重ね増えてきている。

-質疑等なし-

事務局

4つ目の柱「いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。」柱のKPIは今年度達成できていない。各事業においては、健康ポイント事業を進めており、昨年度より多くの方が参加している。ここには掲載していないがピエトロと協働し子どもたちの食育を推進しており、全保育園と今年度は新たに大刀洗小学校でサラダのオリジナルレシピづくりを行った。

委員

同窓会推進事業は実績が少ないが、実施するハードルが高いのか。

事務局

町内の飲食店等を使って、10人以上、全体人数うち2割が町外の人に来るような設定の同窓会にしてくださいという条件がある。

町内の飲食店と連携しながら推進していく必要があると考えている。第1期よかまち創生プロジェクトの期間は利用されていたが、コロナ禍に入ってから減少している。

委員

知っていたらもっと使われるのではと思う。

委員

今後、校区センターの改修が計画されていると聞いているが、今の建物をただ改修するとか、画一的に4つの小学校区の校区センターを同じようではなくて、先ほど言ったように地域間格差とか、地域特性があると思うので、その地域に合った校区センターにして欲しいなど。

例えば大堰であれば、本当においしい野菜がいっぱいと取れるのにそれを買うところがない。だから私は週1回でも校区センターでマルシェできるような会場にもらって、大刀洗町のおいしい野菜買えるよってというような、そんな特色を持ってやって欲しいなど。

菊池は大刀洗公園があり、運動できるので隣の就業センターで汗を流せるとか、中にちょっと運動ができる機械を設置、改修するときに運動できる施設を作ってもらえたら。

菊池は若い世代が多いので、ちょっと運動したいという方たくさんいらっしゃると思う。今は町内に運動施設がないので、周りの市町村に行っているのも、ぜひ身近なところで、若いうちから運動ができるような施設を町内にも作って欲しいなと。

今後の計画には、いろいろな地域特性に合ったまちづくりを入れて欲しい。(別紙1「3」を参照)

委員

2つお伺いしたいのですが、まず、防災士育成事業は、県の補助事業が令和6年度で終わると聞いた。県補助事業終了後も大刀洗町独自で助成をして、防災士の人数を増やしていく予定なのか。

防災士の集まりに行くと、資格を取ったが活かせる場がないということをおっしゃる。本来であれば自発的に動きましょうという趣旨だと思うが、今まで何もなかった地域なので、やっぱりどこかに旗振りをやらしてもらわないと動けない。資格を持っている人数だけ増えたではなく、各校区センター等で何かしら企画を考えてもらえれば。

あと、のりあい定額タクシーのKPIで1日当たりの目標数が20人の根拠が知りたい。実際に予約が取れないと言っている人たちが私の周りでは多い。まれなケースだと思うが、私がひばり号を使おうとして予約が取れなかったのでタクシーでお願いしますと言うとタクシーも配車できないと言われました。結局少ないパイの取り合いみたいになっている現状がある。

今、高齢化になって、ドライバーさん自体がいなくていう中で、本来タクシーとして使いたい人が使えない状況も発生しているということも実情があるので、別の方法もご検討いただく時期に入ってきているのかなと思う。

事務局

防災士の育成事業を今後も継続するかにつきましては、担当課に確認して後日議事録と一緒に送付する。

また、防災士の資格を取ってもなかなか活動に結びついていないのが課題という点については、担当者も課題意識を持っていて、担当地域の防災意識の啓発などに知識や経験等をいかせるよう働きかけたいと言っていた。(別紙1「4」を参照)

のりあい定額タクシーの数値目標については、ひばり号を始める以前に行っていた社会実験の巡回バスの数字を参考にしており、ひばり号との相違は出てきているなど担当者として思っている。ここの目標のあり方の部分について今後検討していく段階なのかなと思っている。(別紙1「5」を参照)

また、予約がひばり号も一般のタクシーもなかなか取れないという実際にご利用の方からの意見をなかなか聞く機会がないので、実情を教えてくださいありがとうございます。タクシー運転手の確保は、非常に難しい課題で、運行事業者と住民の方も含めて、情報を共有していきながら、より改善に向かうよう方策を検討していけたらと思っている。

車もない、運転手もないのでタクシー空白地帯になっていて、また乗る需要も少ないからここからタクシー事業所が撤退しており、次の手段としてまた新しい交通の何かを考えないといけないフェーズに来ていると認識している。

事務局

5つ目の柱「大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。」の柱のKPIは達成している。各事業においてたちあらい応援大使事業は、えだまめ収穫祭やイベントに訪れた方や既に大使になっている方からの紹介などで順調に推移している。掲載していない事業については、令和6年度町ホームページのリニューアルを予定しており、情報発信力を強化していきたいと考えている。

委員

周辺市町村と連携して有効な発信をしていくことが重要だと思う。最近の社会情勢的にも各地で戦争が多く平和事業に関心を持たれており、大刀洗という地名は飛行場とリンクして認識されている。町に移住された方たちがどれくらいご存知なのかと感じる。町民や近隣で戦争を経験された方も高齢になり、生の声をご紹介する機会をもつことは一層難しくなるのではないかと感じる。

また、昭和28水で大刀洗町には大変な被害があった。それについても意外と知らない世代の方たちが多く、経験が受け継がれなくなっているのではと感じる。

広報紙のつながるコーナーや別のページでもいいので、後世へ受け継ぐべきことを伝える紙面作りをお願いしたい。

慰霊祭を筑前町や朝倉市でされているので企画するときに大刀洗町も何かあってもいいのでは。

事務局

大刀洗飛行場に関しては100周年のときに、記念事業として、イベント実施と、平和記念館が、関係する朝倉市と筑前町と大刀洗町で協議会を開いておりまして、そちらも再来年度に記念周年を迎えるので、何か連携ができないかという協議にはもうすでに入っている。

広報紙では10年前は確かに特集しました。それ以降はおそらく紙面では取り上げていない。28水の方は、少し取り上げたかと思う。貴重なご意見ありがとうございます。

会長

今日をまとめるとするならば、地域間の格差、KPIの位置づけというか精査、審議会のあり方についてこれから検討が必要。

事務局

会長の方からもありましたけれども、第1期、第2期と人口が増えた事は、町の特徴でもありこれは本当にありがたいこと。ただ、ここから先の第3期が、本当に大事だと再認識させられ、人口が増えた状態から、校区間のばらつき、また特性が出てきたとか、コミュニティが希薄化したとか、その人口の減少もそもそも悪いことなのかどうなのかとところをしっかりと整理しながら、令和7年度以降の第3期をしっかりと計画を作っていきたい。

最後にご指摘があったが、KPIの設定の仕方については、まだまだ勉強不足な部分もあり、KPIの目標数値とこの施策全体をどう進めていくのかを審議委員の皆様と議論しながら進めたい。

本当に長時間になりましたけれども、ありがとうございます。

■補足資料（別紙1）

	担当課	質問（意見）	回答（対応）
1	地域振興課	18P、19Pのグラフが逆ではないか？あわせて18P、19P転出入の数値の合計は9Pの社会増減の数値と一致しないが、どうしてか。	グラフについてはご指摘のとおり誤っておりましたので、修正したものを送ります。18P、19Pのグラフの出典元リーサスは総務省「住民基本台帳人口移動報告」をグラフ化したものです。統計局によって1月～12月の国内転出入数が市区町村別で集計されています。これには国外からの転入者及び国外への転出者は数値に含まれていません。一方、9Pの社会増減については、町の「住民基本台帳」をもとに作成しており、これは前年10月～当年9月を対象期間とし、国内外への転出入を含んでいます。18、19P・9Pの不一致は国内外への転出入数を含むか否か、とともに一部において町と統計局の集計内容が異なるため、不一致が生じているものです。
2	子ども課	コミュニティ・スクール事業の目標値がアバウトで、どうやってカウントしているのですか。令和3年だけ370人でそのほかは1,000人となっているので。項目によっては1,000人の根拠は何かと言われたときに、根拠は薄いのではないか。	1,000人という枠が決まっており、小学校、中学校で5校あり、1校あたりのべ200人ずつ計算となっている。
3	地域振興課	今後、校区センターの改修が計画されていると聞いているが、今の建物をただ改修するとか、画一的に4つの小学校区の校区センターを同じようではなくて、先ほど言ったように地域間格差とか、地域特性があると思うので、その地域に合った校区センターにして欲しいなど。 例えば大堰であれば、本当においしい野菜がいっぱい取れるのにそれを買うところがない。だから私は週1回でも校区センターでマルシェできるような会場にもらって、大刀洗町のおいしい野菜買えるよってというような、そんな特色を持ってやって欲しいなど。 菊池は大刀洗公園があり、運動できるので隣の就業センターで汗を流せるとか、中にちょっと運動ができる機械を設置、改修するときに運動できる施設を作ってもらえたら。菊池は若い世代が多いので、ちょっと運動したいという方たくさんいらっしゃると思う。今は町内に運動施設がないので、周りの市町村に行っているで、ぜひ身近なところで、若いうちから運動ができるような施設を町内にも作って欲しいなど。 今後の計画には、いろいろな地域特性に合ったまちづくりを入れて欲しい。	各校区センターの管理運営委員会に大規模改修の要望を聞く等、地元の声を取り入れながら改修を行っています。また、大堰交流センターでは令和5年9月から毎月1回、野菜の販売会の実施、就業改善センターでは大刀洗公園でゆっくりできるよう、キッチンカー等を呼んだイベントを実施するなど、各校区地域の特性を活かせるイベントも実施しています。今後も管理運営委員会のご意見を伺いながらより良い校区センターの運営に努めていきます。
4	総務課	防災土育成事業が、県の補助事業で令和6年度で終わると聞いた。県補助事業が終了後も大刀洗町独自で助成をして、防災士の人数を増やしていく予定なのか。	R7年度も引き続き町単補助継続予定です。
5	地域振興課	のりあい定額タクシーのKPIで1日当たりの目標数が20人の根拠が知りたい。	のりあい定額タクシーひばり号の目標値「20人」は令和3年度に策定、令和4年度からスタートした大刀洗町地域交通交通計画内の同事業の目標値と同数としております。これは令和3年11～12月に実施した社会実験結果（10人/日）を参考値とし、社会実験時の利用者の2倍を目標として設定しています。
6	産業課	創業・新事業展開補助金について、よい取り組みだと思うので、広報や周知に力を入れてほしい。（欠席された審議委員からの聞き取りより）	町広報紙や町ホームページへの掲載や商工会との連携を行い、制度の周知に努めていきたいと考えています。
7	地域振興課 産業課	町内在勤者が町のよさを知って移住などにつながるような取組みやきっかけづくりがあればよい。（欠席された審議委員からの聞き取りより）	商工会や誘致企業会等と情報交換・共有していきながら、町内で勤務されている町外在住者に対する定住促進につながる発信のあり方や取組みを検討したいと考えています。